

# 打ち合わせにおける談話構造の修辞機能からの分析

田中弥生 (国立国語研究所)

## 1.背景と目的

先行研究:

- 職場談話
- 文末表現、疑問表現、敬語...
- 談話進行、談話構造など (現代日本語研究会 2011)
- 少人数企画会議
- 談話管理スタイル (渡邊2014a,2014b)
- 談話構造分析 (ザトラウスキー1993, 鈴木2002,筒井2012)

### 本研究の目的

打ち合わせの談話構造を修辞機能の観点から検討する

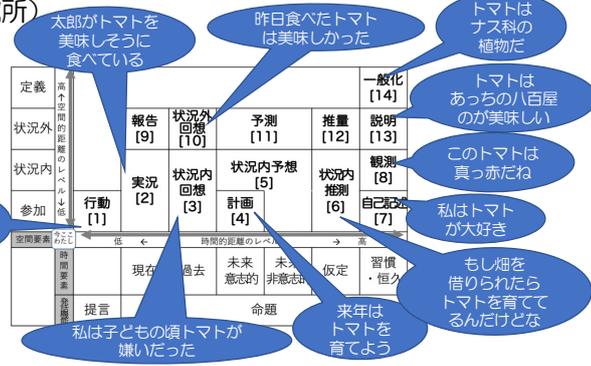
### 本研究における観点

#### 修辞機能

話し手書き手が発信する際に、言及する対象である事態や事物、人物等を捉え表現する様態を分類し概念化したもの

#### 脱文脈度

コミュニケーションが行われている時空とその発話内容との時間的・空間的距離の程度



## 2.分析データ・方法

データ:

- 『日本語日常会話コーパス』
- 公共施設で地域活動の仲間たちとイベントの打合せ
- 日本語分析の先行研究 (K004\_017)
- 17分
- 7名

方法: 修辞機能分析

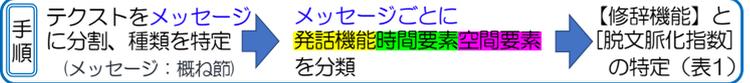
修辞ユニット分析\*を元に日本語文法の枠組みで修正した談話分析法

\*佐野2010,佐野小磯2011: 言語テキストに空間と時間の融合がどのように示されているかをとらえ、脱文脈化言語・文脈化言語の相違をとらえる枠組み

日本語教育の作文指導(佐野2010b), 教室学習談話の検討(比留間2016) QAサイト、クチコミサイト等における

テキストの展開分析への適用(田中2011等) チラシの評価との連関(田中2017) 児童作文の分析(田中2018, 田中ほか2021)

手順説明談話の分析(田中ほか2020) 取引先との談話の分析(田中ほか2021) 高齢者グループの談話の分析(田中ほか2021)など



- メッセージの種類**
  - 定型句類 相槌や挨拶など
  - 従属 原因や条件を表す従属節
  - 並列 上記以外の従属節
  - 引用
  - 主節 主節
- 発話機能**
  - 交換しているもので分類
  - 命題 (情報の要求/提供)
  - 提言 (行動・モノの要求/提供)
- 時間要素**
  - 述部から分類
  - 現在;
  - 習慣・恒久
  - 過去
  - 未来意志的
  - 未来非意志的
  - 仮定
- 空間要素**
  - 主語・主題から分類
  - 参加
  - 状況内
  - 状況外
  - 定義

【分類例】 私は子どもの頃トマトが嫌いだった  
主節 命題 & 参加 & 過去 → 「状況外回想」 [3]

## 3.分析結果

### 1)参加者ごとのメッセージ数



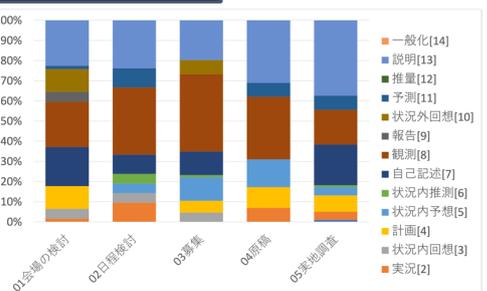
主節と並列が分類対象。一ノ宮、塚田、土井の発話が多。

- 1.会場の検討
- 2.日程検討
- 3.募集
- 4.原稿
- 5.実地調査

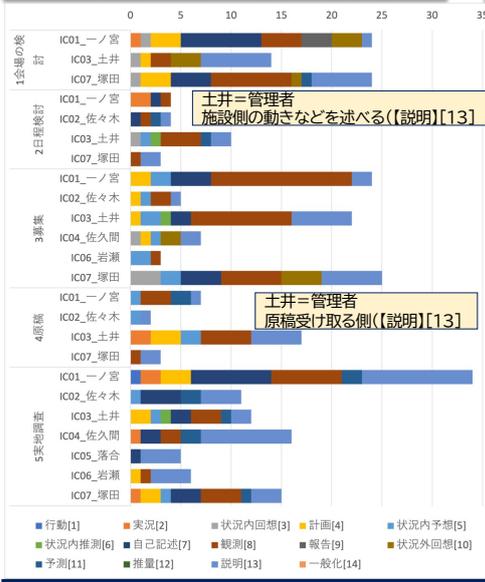
### 2)話題内容ごとの修辞機能

修辞機能 (脱文脈指数)	1 会場の検討	2 日程検討	3 募集	4 原稿	5 実地調査	計
一般化 [14]	0	0	0	0	0	0
説明 [13]	14	5	17	9	37	82
推量 [12]	0	0	0	0	0	0
予測 [11]	1	2	0	2	7	12
状況内回想 [10]	7	0	6	0	0	13
報告 [9]	3	0	0	0	0	3
観測 [8]	14	7	33	9	17	80
自己記述 [7]	12	2	10	0	20	44
状況内推測 [6]	0	1	1	0	1	3
状況内予想 [5]	0	1	10	4	4	19
計画 [4]	7	0	5	3	8	23
状況内回想 [3]	3	1	4	0	0	8
実況 [2]	1	2	0	2	4	9
行動 [1]	0	0	0	0	1	1
計	62	21	86	29	99	297

### 全体で【説明】 [13] 【観測】 [8]



### 3)話題内容ごと参加者別の修辞機能



話題内容によって会話の参加人数が異なる  
= 話題によって発言しない人がいる

### 4)話題内容ごと冒頭の修辞機能

1 会場の検討	2 日程検討	3 募集
<p>発話者: IC01_一ノ宮, IC07_塚田</p> <p>発話: (R 第二)の区画: でラストでいいのかな。 (φ = コースの内容は) ... ラストでいいのかな</p> <p>修辞機能 [脱文脈度]: 観測 [08]</p> <p>参加要素: 状況内 時間要素: 習慣・恒久</p>	<p>発話者: IC01_一ノ宮, IC02_佐々木, IC03_土井, IC07_塚田</p> <p>発話: 会場、最後までしても、驚宮の時もそうでしたけど。やっぱ会場がね 最後がちがちになっちゃうと。</p> <p>修辞機能 [脱文脈度]: 状況内回想 [10]</p>	<p>発話者: IC01_一ノ宮, IC02_佐々木, IC01_一ノ宮</p> <p>発話: 例の紙芝居やりましたよね? うん うん。</p> <p>修辞機能 [脱文脈度]: 状況内回想 [03]</p>
<p>発話者: IC01_一ノ宮, IC03_土井</p> <p>発話: だからこれ えっと 日にち的には一応十一月のどこかって感じですかね。</p> <p>修辞機能 [脱文脈度]: 観測 [08]</p> <p>参加要素: 状況内 時間要素: 習慣・恒久</p>	<p>発話者: IC01_一ノ宮, IC07_塚田, IC03_土井</p> <p>発話: そうですね。 そうですね。 そうですね。 九月のたぶん一日ぐらいが抽選日なるから その前ってことですかね。</p> <p>修辞機能 [脱文脈度]: 観測 [08]</p>	<p>発話者: IC01_一ノ宮, IC03_土井, IC02_佐々木, IC03_土井</p> <p>発話: あとまあ そうですね。 募集の時期ですね。</p> <p>修辞機能 [脱文脈度]: 観測 [08]</p>
<p>発話者: IC01_一ノ宮, IC02_佐々木, IC03_土井, IC07_塚田</p> <p>発話: 土井 = 管理者 施設側の動きなどを述べる (【説明】 [13])</p>	<p>発話者: IC01_一ノ宮, IC02_佐々木, IC03_土井, IC07_塚田</p> <p>発話: 土井 = 管理者 原稿受け取る側 (【説明】 [13])</p>	<p>発話者: IC01_一ノ宮, IC02_佐々木, IC03_土井, IC07_塚田</p> <p>発話: あとまあ (φ = 決めるのは) 募集の時期ですね</p> <p>参加要素: 状況内 時間要素: 習慣・恒久</p>

### 4 原稿

発話者	発話	修辞機能 [脱文脈度]
IC01_一ノ宮	と原稿いつまでですか?。	観測 [08]
IC03_土井	あ。えーとですね。	観測 [08]
IC03_土井	一応 九月の 頭で	観測 [08]
IC03_土井	あーハ	観測 [08]
IC03_土井	えー なんだ 十月号にはこうゆうのを載せたっていうの。	観測 [08]
IC03_土井	あ。 違う。	観測 [08]
IC07_塚田	八月でしょう。	観測 [08]

### 5 実地調査

発話者	発話	修辞機能 [脱文脈度]
IC01_一ノ宮	じゃ ひとりあえず七月の 集まる	観測 [08]
IC05_落合	うん。	観測 [08]
IC04_佐久間	うん。	観測 [08]
IC01_一ノ宮	これ歩きだよね。 また。	状況内予想 [5]
IC01_一ノ宮	あのはいつ? にしましょう。	観測 [08]
IC02_佐々木	そうですね。 七月の集まるのは いつにしましょう	状況内推測 [6]
IC04_佐久間	暑いな。	状況内推測 [6]
IC02_佐々木	暑いな。	状況内推測 [6]
IC06_岩瀬	暑いな。	状況内推測 [6]
IC01_一ノ宮	暑いな。	状況内推測 [6]
IC02_佐々木	時間帯と。	状況内推測 [6]
IC07_塚田	夜にしましょうか?。	計画 [04]

話題内容の切り替りでは【観測】 [8]  
検討している話題 (状況内)  
× その状況 (習慣・恒久)  
5.実地調査 では 【状況内予想】 [5]

4.まとめ  
談話構造 < 【観測】 [8] / 【状況内予想】 [5] → 【説明】 [13] ・ 【観測】 [8] (・ 話題内容に応じた修辞機能) >

本研究の目的: 取引先との談話は脱文脈化の観点からどのように分析できるかを検討する

結果と考察: 1.分析対象の談話で用いられる修辞機能【観測】 [8] 【説明】 [13]が基本  
2.話題の切り替え時は【観測】 [8] (実地調査のみ【状況内予想】 [5])  
話題内容と打ち合わせ参加者の関わりによる違いか?

今後の課題: イベント企画打ち合わせの特徴か? 他の打ち合わせ談話を分析して確認

謝辞: 本研究は国立国語研究所のプロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」、科研費基金 (B) (特設分野研究) (18KT0035)、および科研費基金 (C) (19K00588) によるものです。